

2022年12月期第1四半期決算説明会 Q&A

日時:2022年4月28日(木)18:00~19:05

| No | 項目 | Q | A |
|----|----------|---|--|
| 1 | 全社実績 | 1Qの業績の進捗率が低いですが、社内の計画と比較し、実績をどう捉えているか。また上海ロックダウン影響などのリスクもある中で、計画を修正しなかった背景は。 | 前年同期比では売上が増加も、計画比では営業利益は遅れている。精密減速機事業での日本工場でのコロナ感染拡大や生産量に対応する為の人員費や物流費増加、顧客の部材不足による納期の延期などが主因。上海ロックダウンの影響は、4月単月全社で30億円程度の売上減少のインパクトを想定している。上海ロックダウンが継続すれば、計画を修正する必要性が出てくるが、精密減速機ではエンドマーケットの需要は引き続き高いこと、円安が全社としてはポジティブな要素でマイナス面を補い、年間ではキャッチアップできる範囲だと考えているため計画は修正しなかった。 |
| 2 | 研究開発費 | 本社費について、2022年通期では全社で100億円の計画に対し1Q実績では21億円となっているが使い切れるのか。 | 経費の発生時期ズレもあり、現在の進捗となっている。長期ビジョンや中計を達成していくため研究開発費用はきちんと使う予定。 |
| 3 | CMP | CMPの営業利益が前年同期比で21億円減少しているが、減益要因の内訳を教えてください。 | 売上減少による営業利益減少に加え、原材料価格高騰の影響が6億円、人件費・物流費用の増加が合計3億円程度が影響している。 |
| 4 | 精密減速機事業 | 上海ロックダウンの影響を回避するために、日本から精密減速機を納入する場合、物流コストが増加すると思われるが、その場合は顧客への価格転嫁など、利益を維持する施策を講じるか。 | 実際に代替生産を行う場合、一時的な措置であるため基本的には価格転嫁を行わず、恒常的な措置になった場合に検討予定。一方で原材料の価格高騰の影響については部品内製を含めたサプライチェーンの見直しを含めて対策を検討している。顧客への価格転嫁については、既に交渉を開始しており一部は値上げを認めていただいている動きもある。 |
| 5 | 精密減速機事業 | 部品の内製化について、短い時間軸で実現することは可能なのか。 | ベアリングは数年前から内製化に取り組んでいる。ベアリングメーカーからの調達価格削減よりは安定供給への貢献に期待をしている。 |
| 6 | 精密減速機事業 | 原材料価格の高騰をふくめ、価格転嫁は顧客によっては難しいように感じるが、可能なのか。 | 価格転嫁について、一般産業(FA)向けのカatalogベースでの販売では比較的価格交渉しやすく値上げを行っている。ロボットメーカー向けにも個別のモデルごとに価格交渉の相談をしており、一部値上げを認めていただいている。 |
| 7 | 精密減速機事業 | 精密減速機の需要について、自動化需要の実態に沿ったものなのか、部品不足からくる仮需なのか、需要の継続性をどう見るか。 | 産業用ロボットの需要は底堅いと考えている。その背景として、EVの設備投資が想定以上に強いこと、各ロボットメーカーが多数の受注をかかえ、受注の取捨選択を行うレベルまで至っている。少なくとも今年いっぱいはこの高い需要トレンドが継続すると見ている。当社のリードタイムから考えると、部品不足から精密減速機の仮需が発生しているとは考えにくい。 |
| 8 | 油圧機器事業 | 油圧機器の今期計画の前提に中国国内を含めた拡販を入れているが、中国市場での需要が弱い状況で拡販は可能なのか。 | 中国市場のショベル全体需要は昨年比-20%程度下がると見ていたが、実態はそれよりも悪くなる可能性が出てきている。しかし、インフラ投資への支出拡大を想定していることに加え、欧米や東南アジア市場での拡販も進め、中国市場での落ち込みをカバーする。シェアは減少していないし、今後拡大したいと考えている。 |
| 9 | 航空機器事業 | 航空機の売上増加の背景を教えてください。 | Boeing737MAXの生産が増加していることに加え、航空機の短距離離着陸を中心とした需要増加に伴うMROが増加したため。Boeing787は生産再開が見えていない。防衛については国の防衛予算増加を受け、プラスの影響があることを期待している。 |
| 10 | 上海ロックダウン | 上海ロックダウンによる影響額が30億円と記載があるが、これは売上を指すのか。 | 4月単月の計画比で全社での売上減少額を指している。減少額は代替生産や物流ルート変更などの対応、為替効果、5月以降のキャッチアップで補える範囲と考える。 |
| 11 | 上海ロックダウン | 物流網の停滞リスクはどのくらい続くと考えるか。 | ロックダウンがいつまで続くのか読めないため、正確にはわからない。上海以外の地域に拠点を置く顧客で需要が出てきた場合には、日本やタイなどで代替生産し、納入するサポートを行う。 |
| 12 | HDS株式評価 | 金融費用について、評価損が計上されているが、現在のHDS社の株価からすると更なるマイナスが出てくるのか。配当の変更はあるか。 | 2Q決算のタイミングでも評価替えが発生するため、株価によっては評価損を再度計上する可能性はある。今回の評価損はキャッシュフローに影響しないので、配当方針の変更は考えていない。 |
| 13 | HDS株式評価 | 1Qでは、HDS社の約1800万株に対して評価損が計上されているが、残り半分の株式売却完了まで評価損益が継続して処理されるのか。 | 全株式売却完了までは保有している株式分に対して評価損益で計上し、売却完了時に売却損益の計上を行う。 |